

			科目コード	114
科目名	初学者ゼミ (Introduction to University Learning)		開講学科	看護学科・臨床検査学科
選択区分	必修	単位数 (時間)	1 単位 (30時間)	履修時期
				1 年次前期
担当教員	草薙 康城、脇坂 浩之、鳥居 順子、仲渡 江美、内藤 真帆、金澤 知典		科目区分	共通教育科目
授業概要	主体的な学習者 (active learner) として、大学で学ぶための基本的な学習スキル (スタディ・スキル) や学習態度の修得を、具体的な演習 (グループワーク) を通じて修得する。したがって、本授業では出席が重視される。後期に開講される「基礎ゼミ」をはじめとした全科目への学習の導入と位置づける。授業は全体で実施する場合と、看護・臨床計100名を3グループに分け、3教室に分かれてそれぞれ2名の教員が担当する場合がある。			
授業目標	大学生として、そして将来社会人として求められる「能動的な情報収集力」や「論理的思考力」、「批判的思考力 (クリティカル・シンキング)」について、演習を通じて体験的にその重要性や必要性について気づき、自ら修得する態度の育成を目指す。			

授業内容

回	項目	内 容	担当者
1	大学で「学ぶ」こと この授業の目標とタスク	①担当教員の紹介 ②この授業の学習目標を伝える体験ワーク (PW)	担当者全員
2	大学を知ろう (1) 高校との違いを探そう	①大学生活を思い浮かべてみて違いを探そう (GW) ②大学で「学ぶ」ためのルールを知ろう!	鳥居順子
3	大学を知ろう (2) 教員とのつき合い方	①教員とのつきあい方 「メールの出し方」、「オフィスアワーの使い方」 (PW)、②キャンパス・ハラスメント、③タイム・マネジメントをしてみよう (HW)	
4	ノートの取り方 (1)	①授業スタイルに合わせたノート・テイキング: 3つのタイプ (板書中心、ハンドアウト中心、テキスト中心) の授業体験ワーク ②社会人・医療職者として求められる力とは?	脇坂浩之
5	ノートの取り方 (2)	①役に立つノートとは? 役に立つノートの作り方 ②授業スタイルに合わせたノート・テイキング: パワーポイント中心と講演形式の授業体験ワーク	草薙康城
6	テキストの読み方 (1)	①大学で求められる「読み」のレベルとは? ②論理展開のパターン・練習ワーク (PW) ③要約課題 (HW) テキスト第2章の発表とワーク	脇坂浩之
7	テキストの読み方 (2)	①読むべきテキストの探し方 (図書館の利用の仕方)、②要約のしかた (PW←AS)、③要約課題 (HW)	金澤知典
8	協同学習という学びの方法	①協同学習の理論と技法 (PW・GW) ②協同学習を有効に行うために: アサーション (PW)	内藤真帆
9	きちんと考える方法 (1)	①事実と意見を区別する (PW) ②クリティカル・シンキングを体験しよう (PW)	草薙康城
10	きちんと考える方法 (2)	筋道立てて考える (3 教室に分かれてのGW) ①ブレインストーミング、②「なぜ」の連鎖	担当者全員 (3 教室に分かれて実施)
11	きちんと考える方法 (3)	根拠立てて考える (3 教室に分かれてのGW) ①クロス・ロード「食の安全」編	
12	きちんと考える方法 (4)	視点を変えて考える (3 教室に分かれてのGW) ①ディスカッションを通じて、疑問点を抽出し、理解を深める	
13	レポート・論文の書き方 (1)	《基本編》①小論文とレポートの違い (PW)、②引用の仕方、事実と意見の書き分け、③いろいろなレポートのタイプ	仲渡江美
14	レポート・論文の書き方 (2)	《内容編》①課題の要求する内容を理解する、根拠に基づき論を展開する。②医療・福祉・教育に関するレポート (HW)	
15	レポート・論文の書き方 (3) まとめ	①よいレポートとは? (PW←AS) ②全体のふり返り	担当者全員
成績評価方法	授業時間内課題 (演習ペーパーおよびミニッツ・ペーパーの提出による) 70% HW・自らの学びのふり返りレポート 30%		
教科書	藤田哲也「大学基礎講座 ― 充実した大学生活をおくるために ―」(北大路書房)		
参考図書等	井下千子「思考を鍛えるレポート・論文作成法」(第2版) (慶應義塾大学出版会)		
備考	内容は、演習の進行状況により変更されることがある。 授業の詳細は第1回のオリエンテーションで詳しく説明する。 PW: ペア・ワーク、GW: グループ・ワーク、HW: ホーム・ワーク、AS: アドバイス・シートの活用を示す。 出席していない回のHWやふり返りレポートの提出は認めない。		